第 14 章
豊後大野市の農業

●現状と課題

本市は、大分県の南部に位置し、九州山地の豊かな自然に囲まれた農業地帯です。市の総面積の約 7 割が森林で占められており、清流・大野川をはじめとする水資源に恵まれた地形は、古くから農業に適した環境を形成してきました。

農業は、市の基幹産業であり、耕地面積の多くを水田が占め、米作を中心に多様な作物が栽培されています。また、畜産業も盛んで、肉用牛や豚、鶏などの飼養が行われています。

しかし、近年は、農業従事者の高齢化と後継者不足が深刻化しており、遊休農地の増加や農地の集積・集約化の遅れが課題となっています。加えて、気候変動による異常気象や鳥獣被害の拡大も、農業経営に大きな影響を与えています。これらの課題に対応するため、スマート農業の導入や担い手育成、集落営農法人の支援などが進められています。

平成 24（2012）年 1 月からはインキュベーションファームを開校し、農業経営をめざす研修生を受け入れ、夏秋ピーマンを主とした農業起業者を育成し、農業の担い手の確保と産地拡大を図っています。



インキュベーションファームでの研修（収穫の様子）

●農作物

豊後大野市では、地形や気候を活かした多様な農作物が生産されています。園芸作物については重点品目を選定し、「大分の野菜畑　豊後大野」をキャッチフレーズとして認知度向上を図っています。



•米

市内全域で栽培されており、品質の高さから県内外で高い評価を受けています。

特に朝地町綿田地区で栽培される「綿田米」は、地域の歴史と誇りを背負ったブランド米として名を馳せています。その由来は古く、江戸時代には岡藩の殿様が「御膳米」として食していたと伝えられています。藩の殿様の食膳に供されるほどの品質を誇る米として、今もなお地域の宝として大切に育てられています。



朝地町綿田の田園風景

•夏秋ピーマン

灌漑設備及び栽培設備を整備することにより品質と収量の安定化を図っており、西日本有数の産地となっています。

九州・中国・関西地方への出荷が盛んです。



夏秋ピーマン

•かんしょ(さつまいも)

畑地帯を中心に古くから栽培されています。「甘太くん」をはじめとした高糖度かんしょの栽培を進め、主に九州・関西地方に出荷されますが、香港・シンガポール等にも輸出されています。



かんしょ(さつまいも)

•さといも

粘りと甘みが特徴で、地域ブランドとして定着しています。「里丸くん」のネーミングで販売しており、九州・関西地方を中心に出荷されています。



さといも

•白ねぎ

県内有数の産地であり、畑地帯で土地利用型作物として拡大しています。九州・関西地方を中心に出荷されています。



白ねぎ

•夏秋なす

水田で栽培されており県下を代表する産地です。九州・関西地方を中心に出荷されています。



夏秋なす

•キク

近年、参入された農家が規模拡大や研修生を受け入れ、のれん分方式による就農支援などの取組をしています。関東地方を中心に出荷されています。



キク

•スイートピー

大野町を中心に栽培されています。花色のバリエーションも多く、品質には高い評価をいただいています。九州・関西・関東地方に出荷されています。



スイートピー

•かぼす

大分県の特産であり、豊後大野市の肥沃な土壌がカボスの品質向上に貢献しています。九州・関西・関東地方へ出荷されています。



かぼす

•くり

豊後大野市のくりは県下有数の出荷量を有しています。九州地方を中心に出荷されています。

これらの作物は、地域の気候や土壌に適応しており、今後もブランド化や６次産業化による付加価値の創出が期待されています。



くり

•花木類

令和６(2024)年度から、県やJAと連携し、作付けを推進しています。条件不利地に適した品目もあり、初期費用も苗代程度にとどまることから、生産者の負担が少なく、作付け後も粗放的な管理が可能です。



花木類

•キウイフルーツ

豊後大野市では、温暖な気候と昼夜の寒暖差、肥沃な土壌を生かして、キウイフルーツの栽培が行われています。また、気象災害が比較的少ないことも、安定した生産を支える要因となっています。



キウイフルーツ

•ホオズキ

大分県はホオズキの生産量が全国 1 位の主要産地です。比較的高温に強い品目であるため、近年の厳しい夏の暑さの中でも、安定した栽培が期待されています。



ホオズキ

●畜産業

豊後大野市の畜産業は、農業産出額全体の約 3 割を占める重要な分野です。主な畜種は以下のとおりです。

•肉用牛（和牛）

豊後大野市の畜産業の中心であり、黒毛和種の繁殖が盛んで県内でも有数の飼養頭数を誇り、市場で高い評価を受けています。



第18回豊後大野市畜産共進会(令和7(2025)年8月27日開催)
グランドチャンピオン　ふじ11の1号

•豚、鶏

養豚や養鶏も行われており、衛生管理や飼料の工夫により品質向上が図られ、県内外の消費者から高い評価を受けています。

畜産業においても、飼料価格の高騰や気候変動、家畜伝染病への対応など、経営リスクが増大しています。さらに後継者不足という課題にも直面しています。

市では、堆肥の有効活用による循環型農業の推進、ICT を活用した飼養管理の効率化などを支援し、持続可能な畜産経営の確立を目指しています。



豊のしゃも